

平成 28 年における宇都宮市の交通事故発生状況について

[事故統計関係資料提供 栃木県警察本部]

本市の交通事故発生状況については、第 10 次宇都宮市交通安全計画の重点視点に位置付けた「高齢者」「自転車利用者」「子どもや高校生」に関するデータを中心に掲載する。

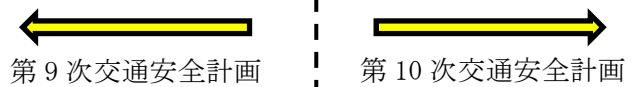
1 宇都宮市の交通事故発生件数，死者数，負傷者数の推移

本市の交通事故発生件数，死者数，負傷者数は減少傾向にあり，特に平成 28 年は，発生件数 1,738 件，死者数 10 人，負傷者数 2,125 人のいずれも昭和 45 年以降の最小値となった。

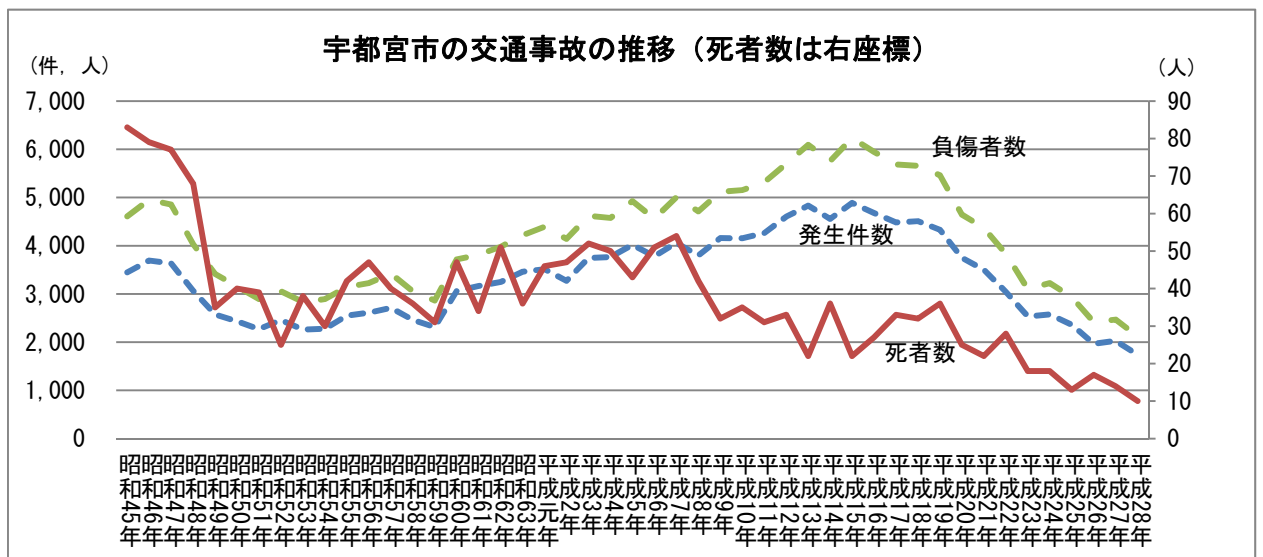
① 過去 5 年間の推移と第 10 次宇都宮市交通安全計画（H28～H32）の目標値

| | 平成 24 年 | 平成 25 年 | 平成 26 年 | 平成 27 年 | 平成 28 年 | 目標値 |
|------|--------------------|---------------------|---------------------|-------------------|---------------------|---------------|
| 死者数 | 18 人 (-) | 13 人 (▲5 人) | 17 人 (4 人) | 14 人 (▲3 人) | 10 人 (▲4 人) | 10 人 以下 |
| 負傷者数 | 3,225 人 (123 人) | 2,938 人 (▲287 人) | 2,416 人 (▲522 人) | 2,467 人 (51 人) | 2,125 人 (▲342 人) | 1,900 人 以下 |
| 発生件数 | 2,576 件 (41 件) | 2,363 件 (▲213 件) | 1,966 件 (▲397 件) | 2,028 件 (62 件) | 1,738 件 (▲290 件) | 1,600 件 以下 |

注) 下段()は対前年増減数



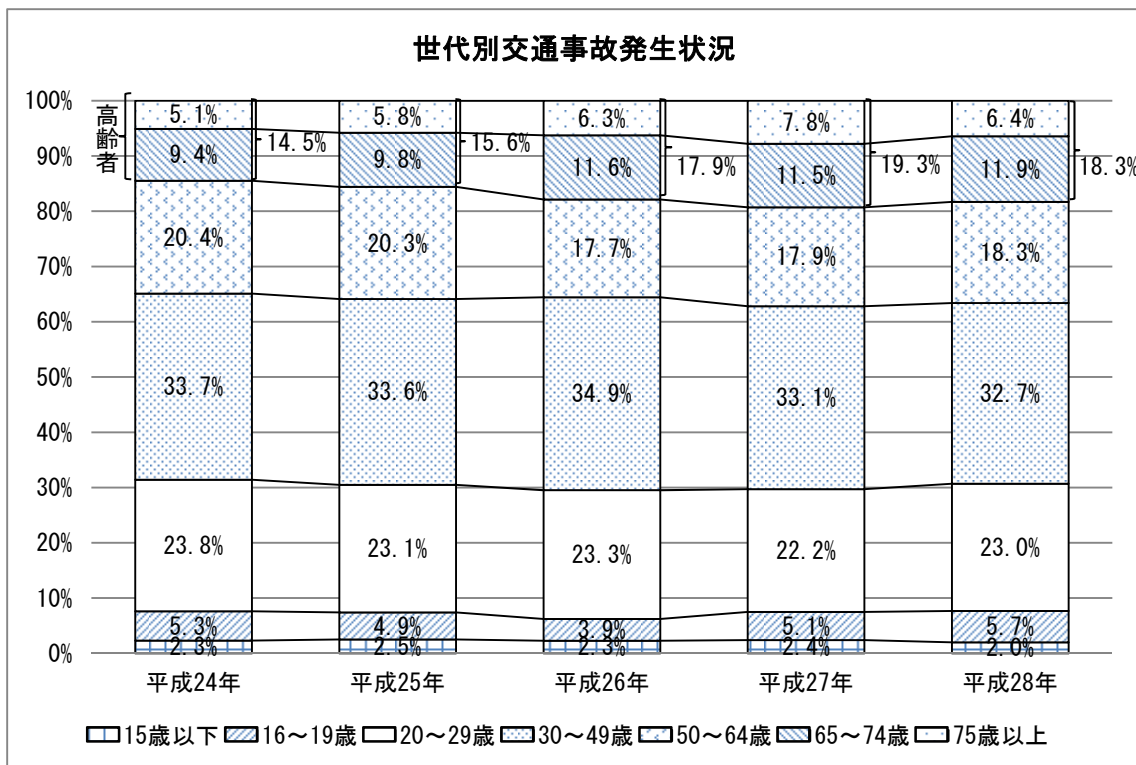
② 宇都宮市の交通事故の推移



- ア 死者数 10 人（過去最小値），過去最多 83 人（S45）の約 8 分の 1
- イ 負傷者数 2,125 人（過去最小値），過去最多 6,236 人（H15）の約 3 分の 1
- ウ 発生件数 1,738 件（過去最小値），過去最多 4,887 件（H15）の約 3 分の 1

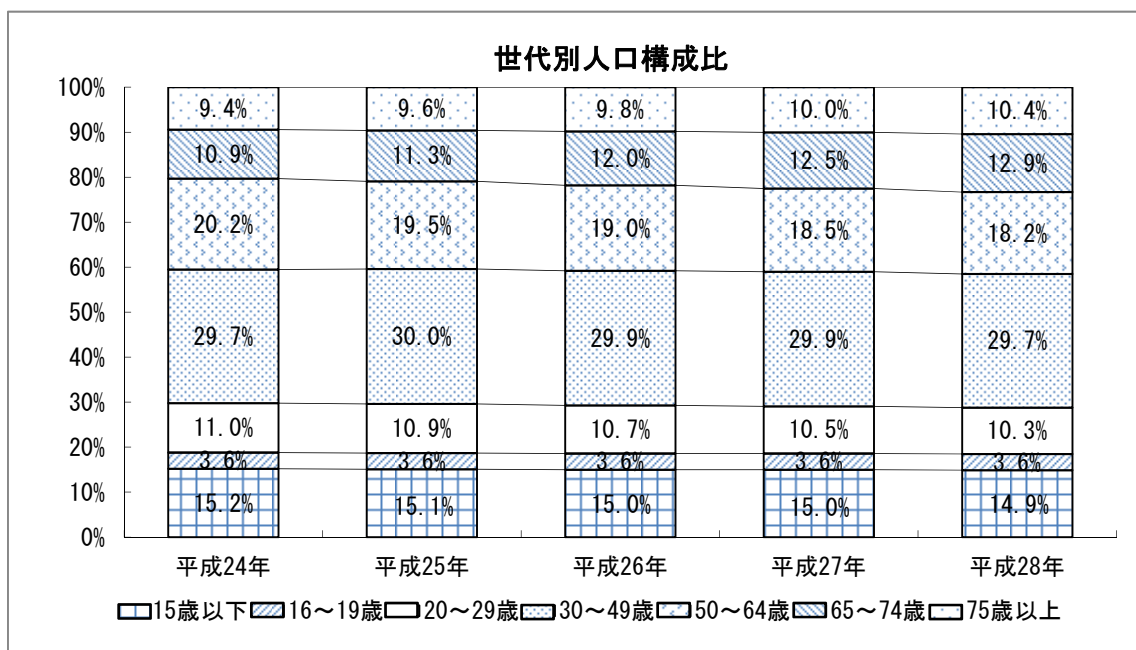
2 世代別交通事故発生状況

第1当事者の世代別の割合では、高齢者（65歳以上）の占める割合が増加傾向となっている。



※ 第1当事者・・・交通事故に関係したした者のうち、過失が最も重い者をいい、過失同等の場合は被害がより軽い者をいう。

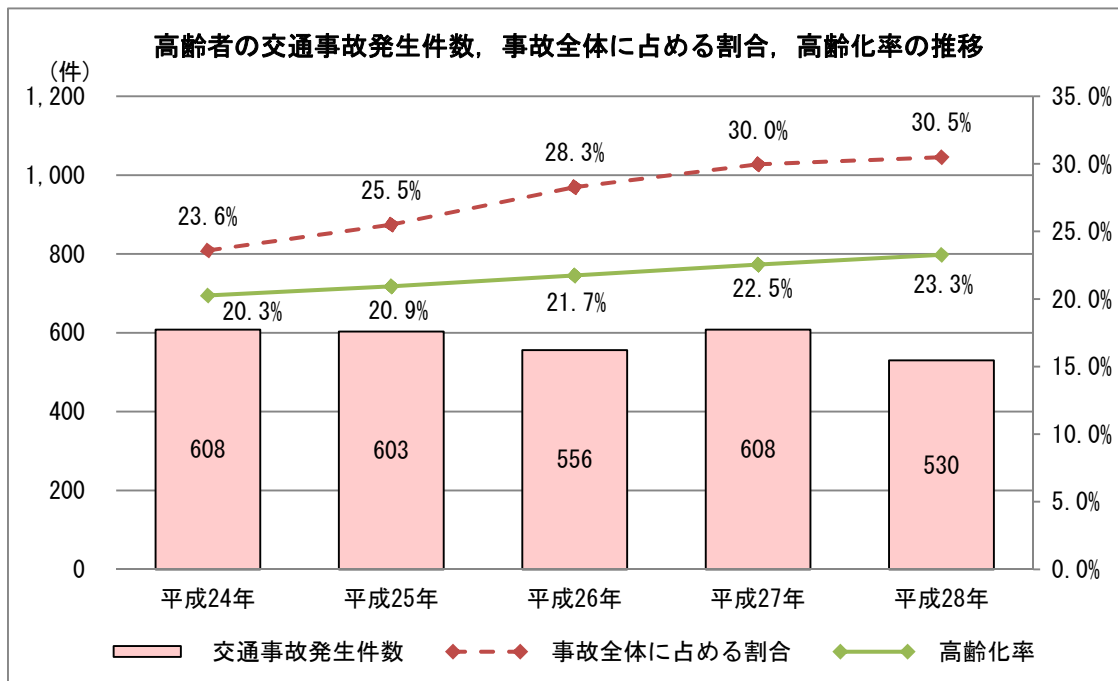
(参考)



3 高齢者の交通事故発生状況

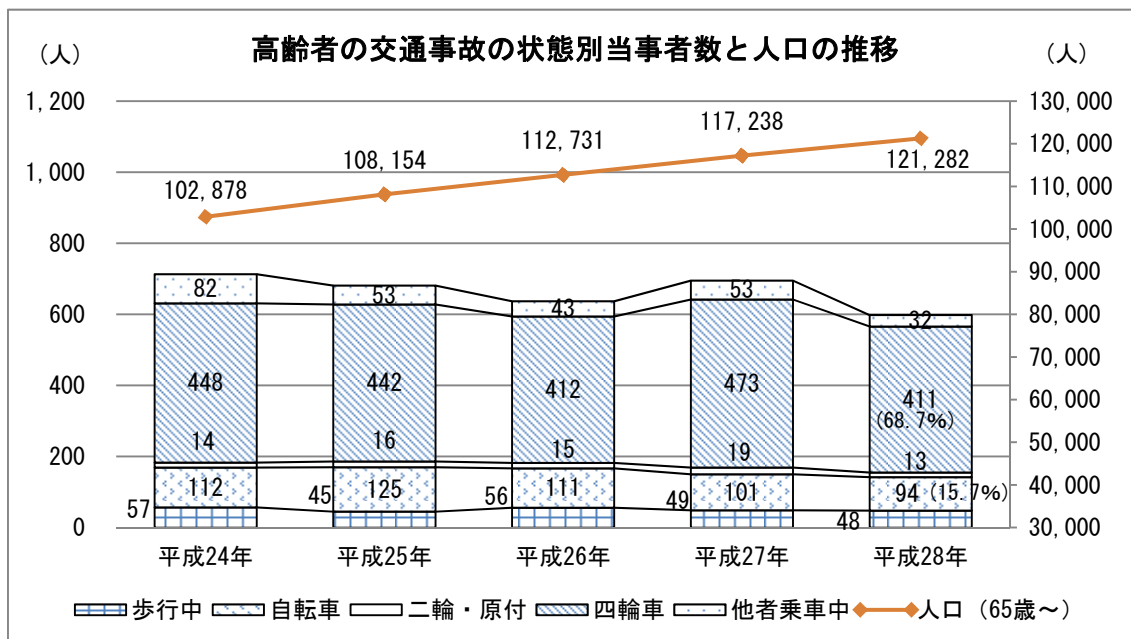
① 高齢者の交通事故発生件数の推移

交通事故発生件数は、平成 27 年に一時増加したものの、総じて減少傾向にあるが、高齢化率の上昇とともに、事故全体に占める高齢者の割合は増加傾向となっている。



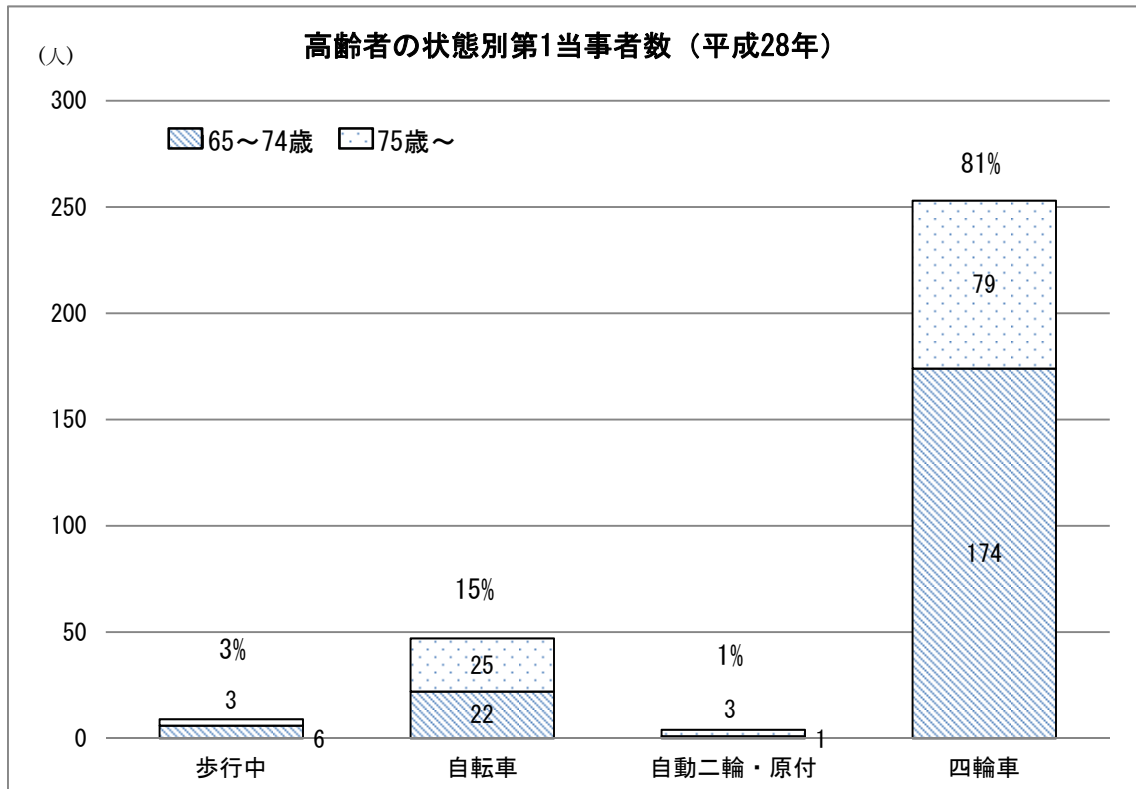
② 高齢者の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

人口は増加しているが、当事者数は平成 27 年に一時増加したものの、総じて減少傾向にあり、状態別では、四輪乗車中が 68.7%，自転車乗車中が 15.7%を占めている。



③ 平成28年の高齢者の状態別第1当事者数

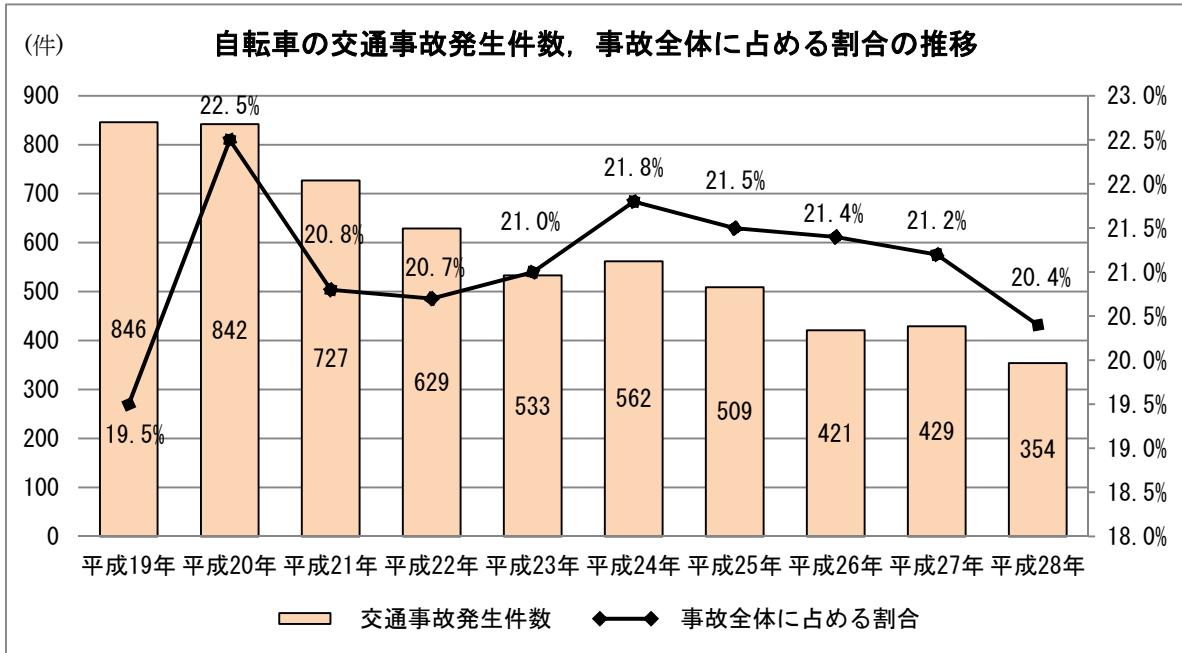
状態別では、計画策定時と傾向は変わらず、四輪車乗車中の割合が81%と高い。



4 自転車の交通事故発生状況

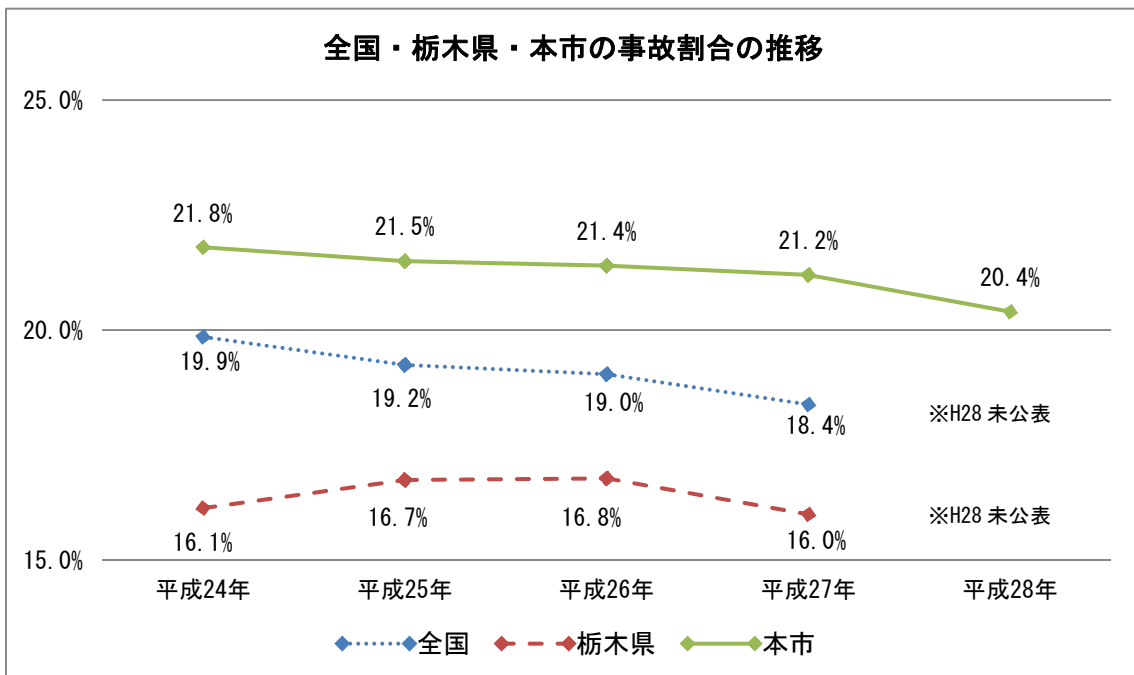
① 自転車の交通事故発生件数の推移

自転車の交通事故発生件数は、減少傾向にある。また、事故全体に占める割合は、過去10年間で19～22%の間を推移しているが、平成24年以降は減少傾向にある。



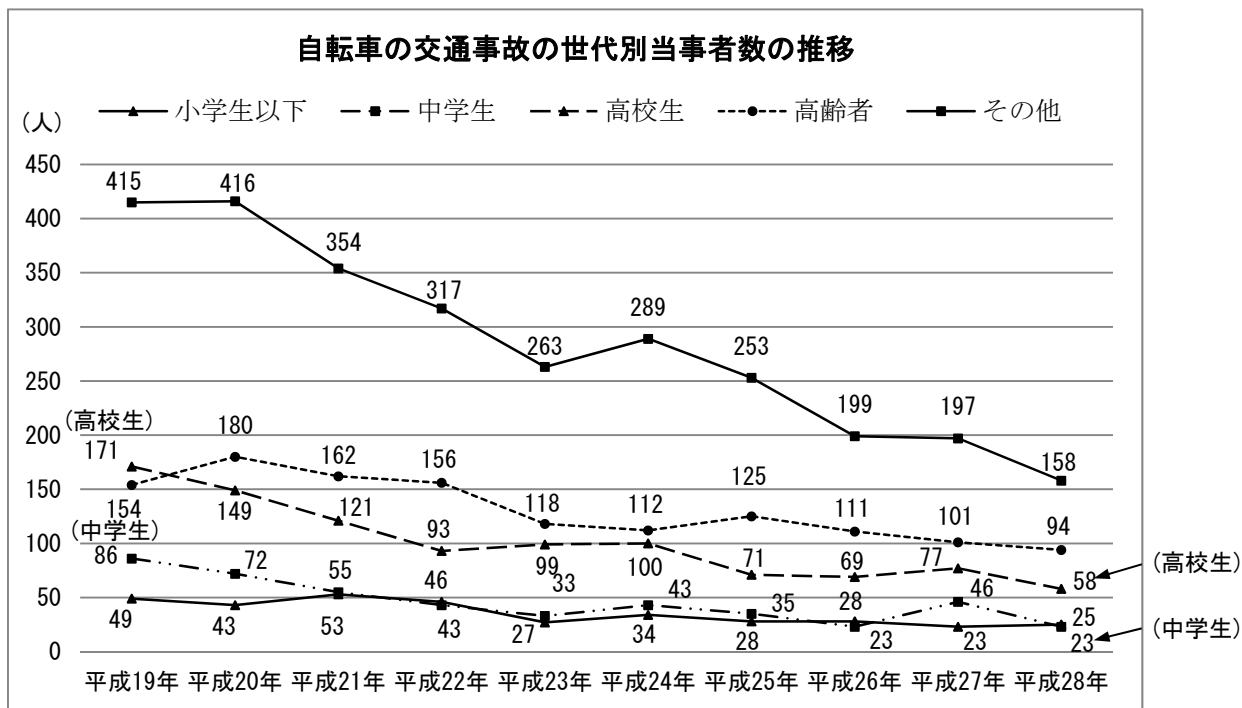
② 自転車の交通事故の事故全体に占める割合の推移（国・県との比較）

交通事故全体に占める割合は、国、県の割合に比べてやや高い。



③ 自転車の交通事故の世代別当事者数の推移

自転車の交通事故当事者は、10年前と比較し全ての年代で減少傾向にある。特に、中学生（73.3%減）、高校生（66.1%減）の順で減少率が高い。

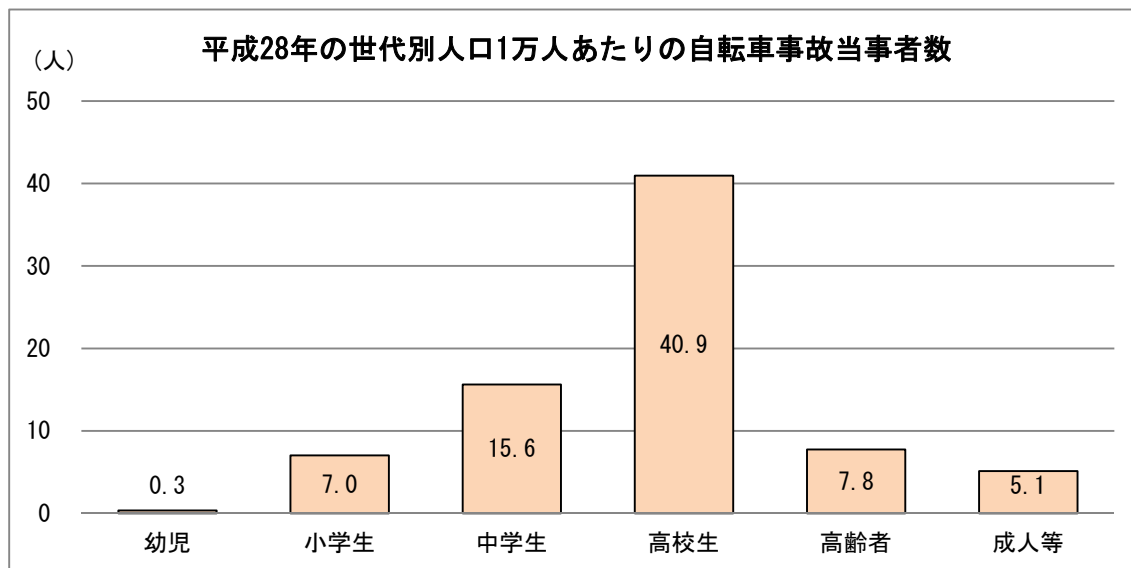


※ H19 から H28 の世代別当事者数の減少率

小学生 49.0% 中学生 73.3% 高校生 66.1% 高齢者 39.0% その他 61.9%

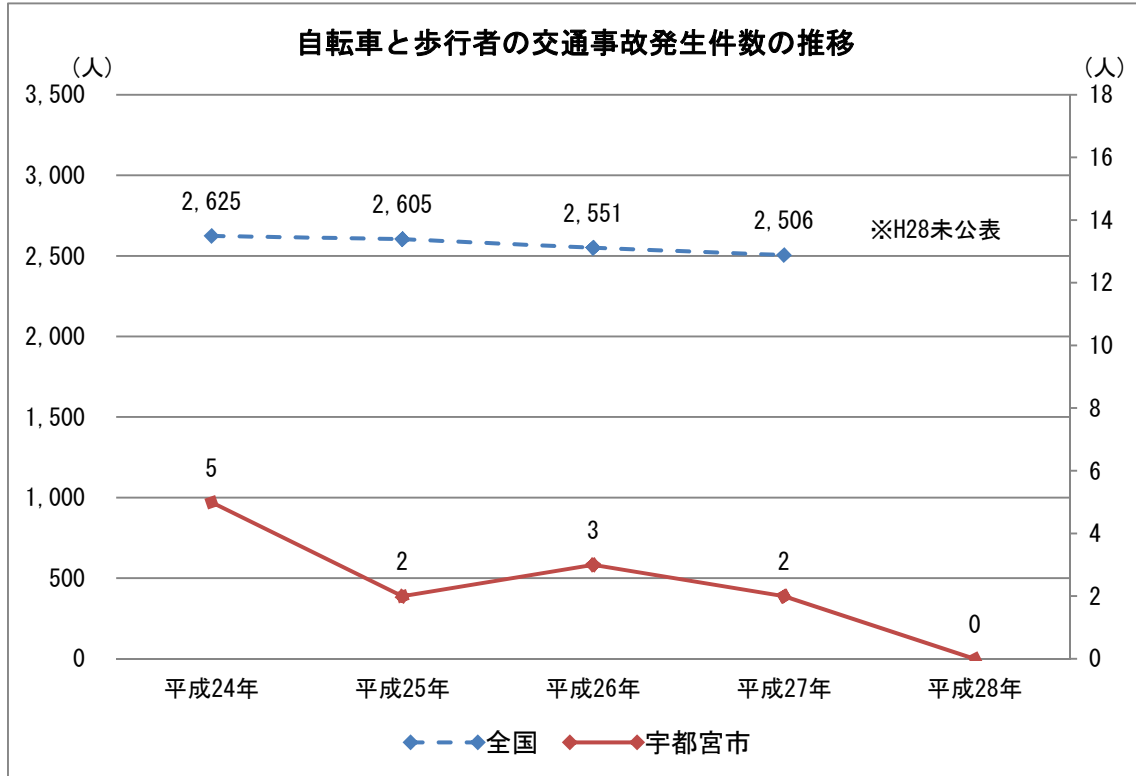
④ 平成28年の世代別人口1万人あたりの自転車事故当事者数

自転車の交通事故当事者は、10年前と比較し中学生や高校生の減少率は大きいものの、世代別人口1万人あたりの自転車事故当事者数を比較すると、計画策定時と変わらず、依然、高校生が突出して多く、次いで中学生となっている。



⑤ 自転車と歩行者の交通事故発生件数の推移

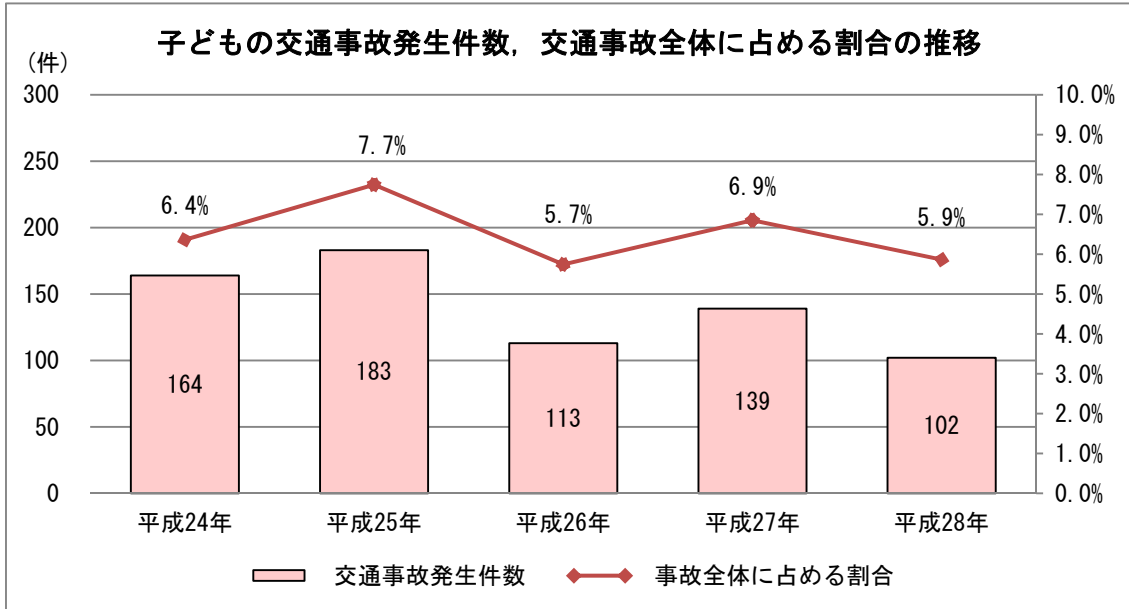
自転車と歩行者の交通事故は減少傾向にあり、本市では平成28年は発生していない。



5 子どもの交通事故発生状況

① 子どもの交通事故発生件数の推移

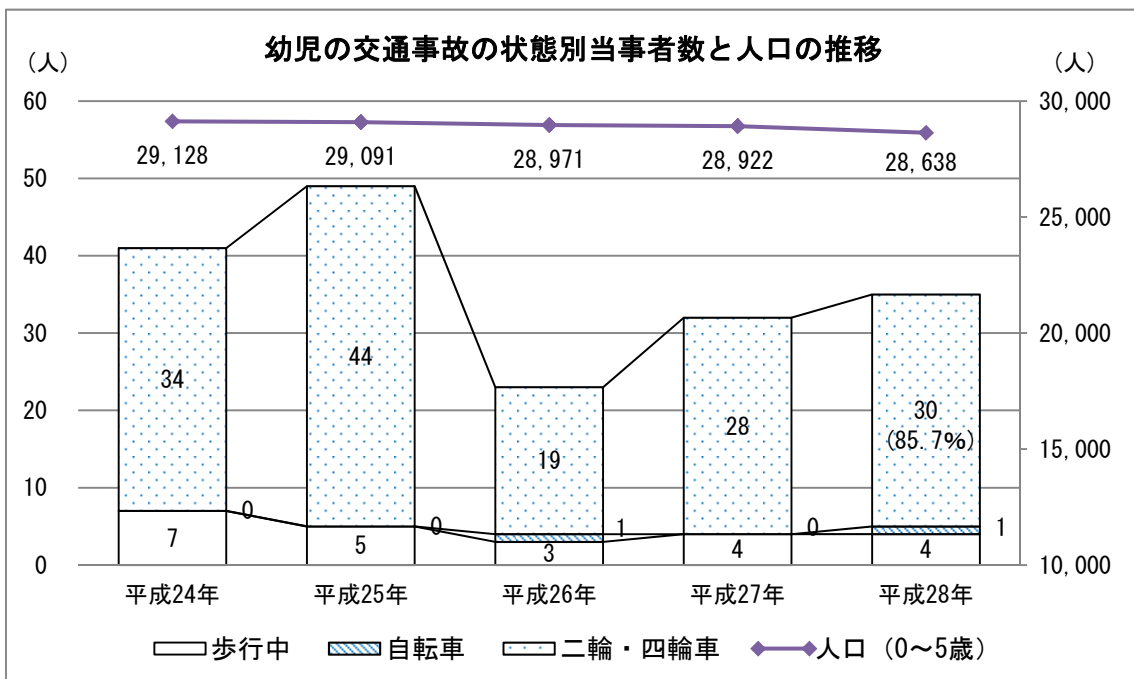
子どもの交通事故発生件数は、増減しながらも、総じて減少傾向にある。



※ 子ども・・・中学生以下の者をいう。

② 幼児の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

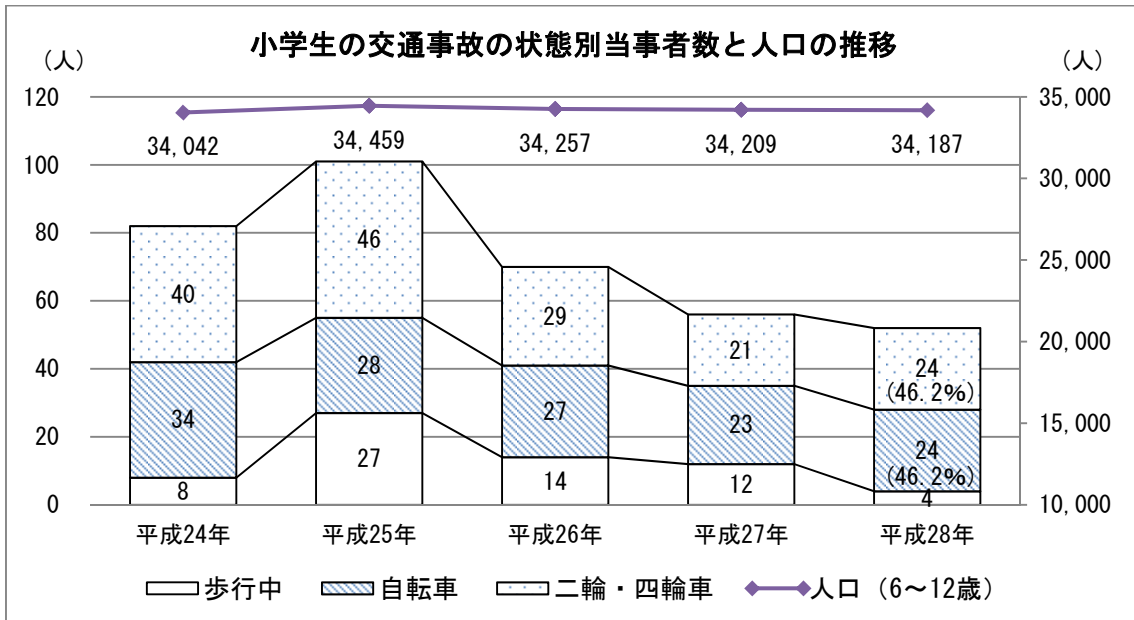
人口は横ばい状態ですが、当事者数は平成26年から増加傾向にある。状態別では二輪・四輪車乗車中の割合が85.7%を占めている。



※ 幼児・・・0歳～5歳までの者をいう。

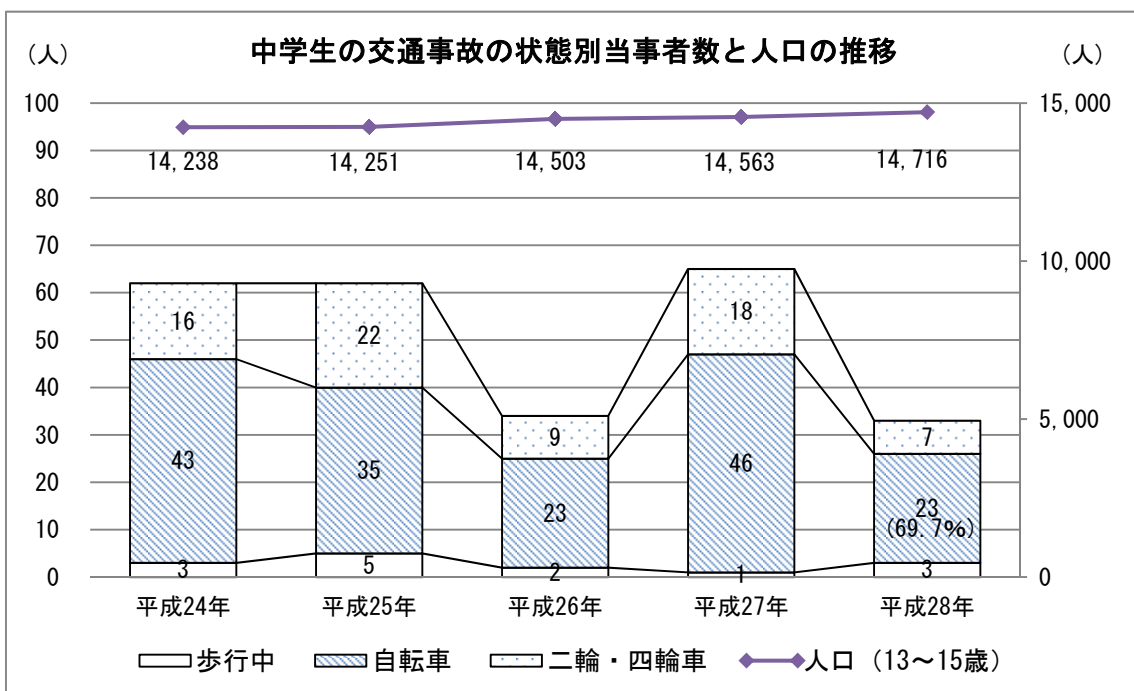
③ 小学生の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

人口は横ばい状態ですが，当事者数は平成 25 年以降，減少傾向が続いている。状態別では自転車と二輪・四輪車乗車中の割合が，ともに 46.2%を占めている。歩行者の当事者数は平成 27 年から大きく減少した。



④ 中学生の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

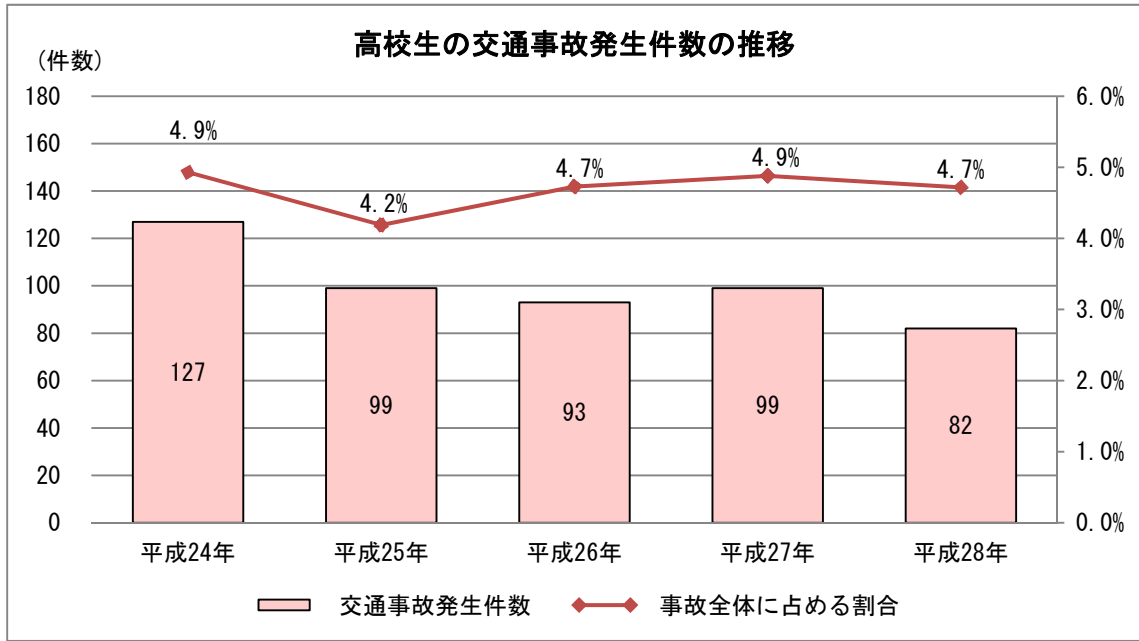
人口は緩やかに増加しているが，当事者数は平成 27 年から半減した。状態別では自転車の割合が 69.7%を占めている。



6 高校生の交通事故発生状況

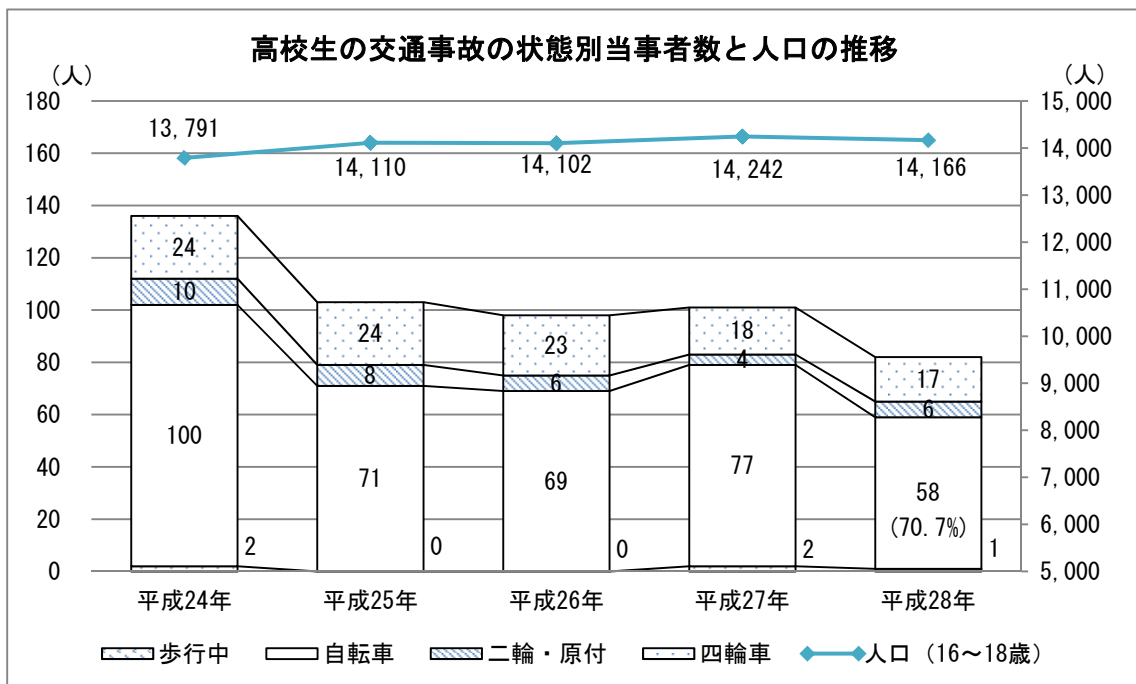
① 高校生の交通事故発生件数の推移

高校生の交通事故発生件数は、平成27年に一時増加したものの、減少傾向にある。事故全体に占める割合は横ばい状態である。



② 高校生の交通事故の状態別当事者数と人口の推移

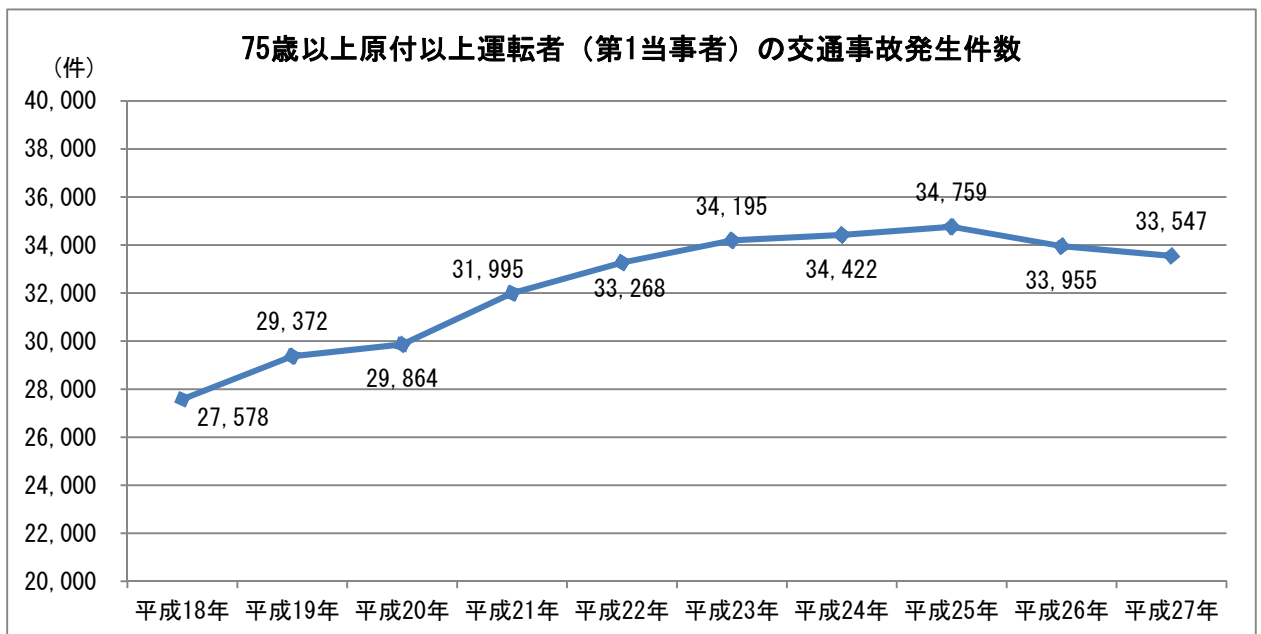
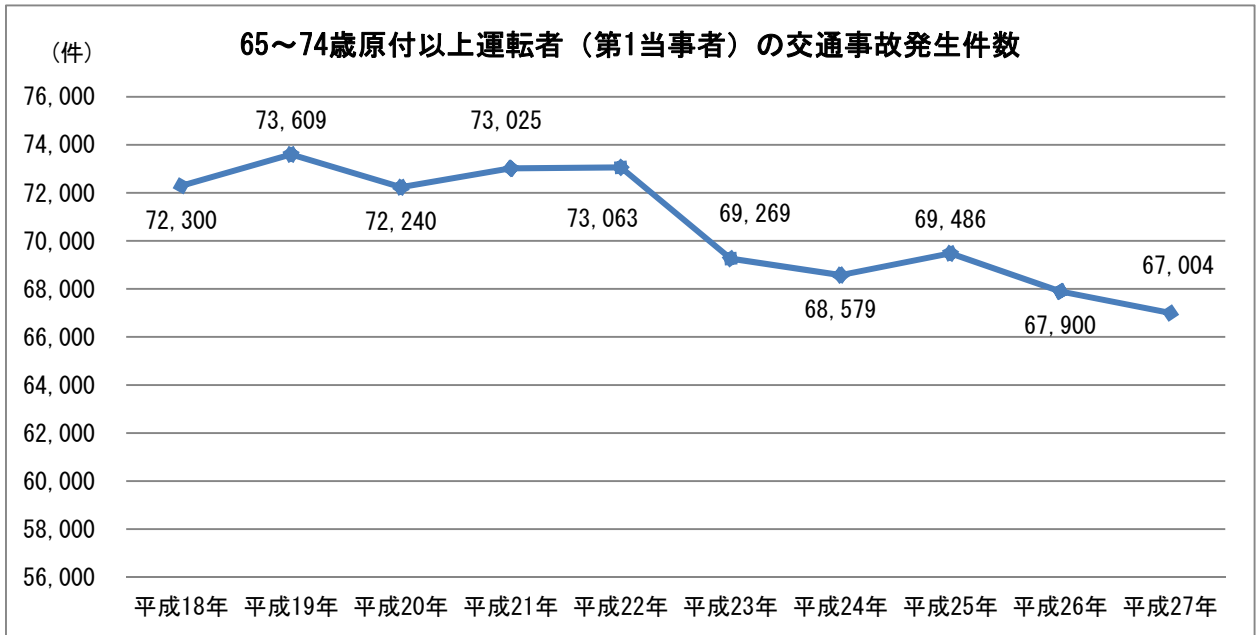
人口は緩やかに増加しているが、当事者数は減少傾向にある。状態別では、自転車乗車中が70.7%を占めている。



(参考) 高齢ドライバーの交通事故発生状況

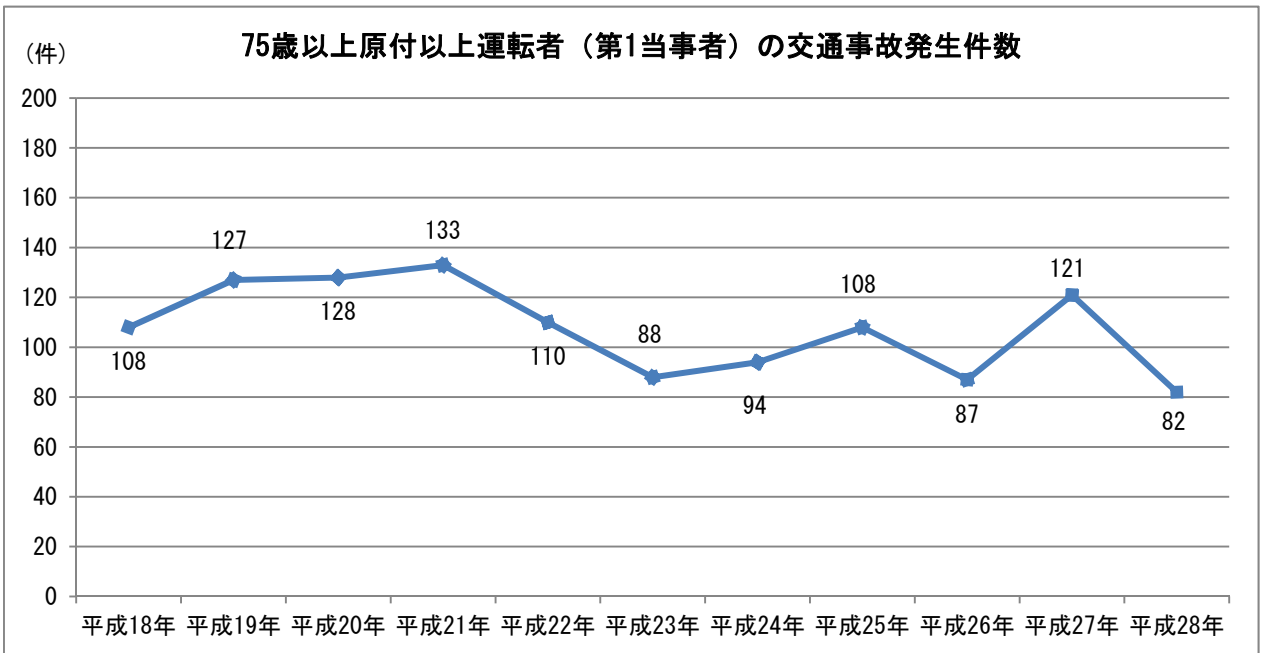
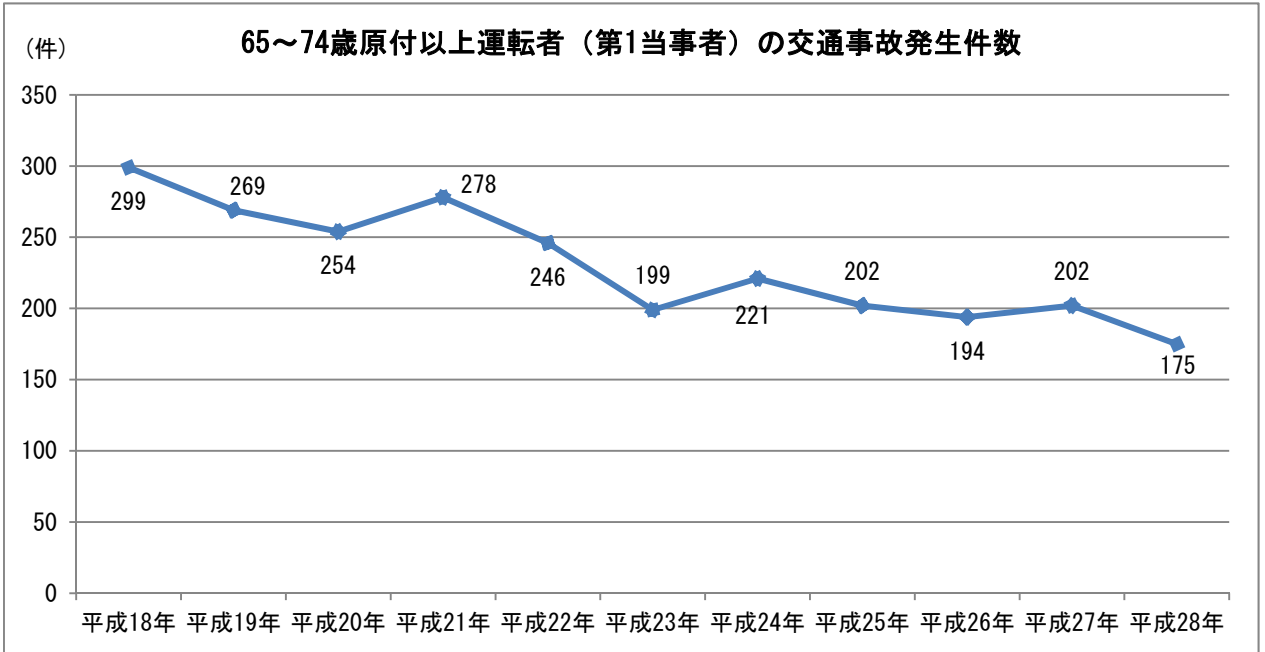
【全国】

65歳から74歳までの原付以上運転者（第1当事者）の交通事故は減少傾向にあるが、75歳以上では増加傾向にある。



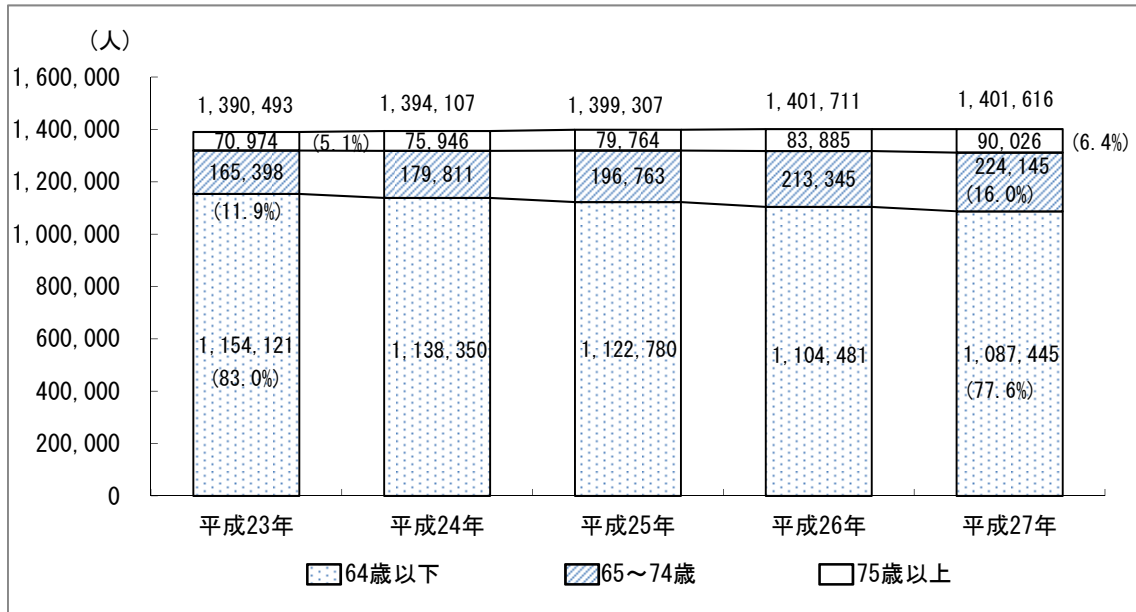
【本市】

65歳から74歳までの原付以上運転者（第1当事者）の交通事故は減少傾向にある。また、75歳以上では、横ばい傾向にあったが、平成28年は前年と比較し減少した。



(参考) 県内の年齢別運転免許保有状況

県内の運転免許保有者数は横ばい状態であるが、65歳以上の割合は年々高まっている。



(参考) 宇都宮市の運転免許申請取消(自主返納)状況

宇都宮市在住者の運転免許自主返納件数は増加傾向にある。平成28年は前年と比べ返納件数が、約18%増加した。

